

二〇二二年大阪府高等学校演劇研究大会上演台本

コンクール台本

# 「フエキリゅーくら」

東海大学付属大阪仰星高等学校演劇部

作 阪 本 龍 夫

## ≪登場人物≫

ジョー	2年	
ユウ	2年	
リナ	1年	ダンス部
レイ	1年	演劇部
ユーリ	1年	音楽部
ミミ	1年	家庭科部
ソニア	1年	逃亡してきた女性兵士
マリア	先生	

【プロローグ】 幕開き。客電がついたまま。

音楽 「クープランの墓 フーガ」 ラヴェル 静かに流れてくる。客電点いたまま。  
地下室のような薄暗い場所。ダンボールが積み重ねられている。客席から一人のコートを着て、帽子をかぶった男が歩いてくる。舞台を静かに見渡し、あちらこちらを懐かしそうに見て回る。倒れた脚立を立て、倒れた椅子を直す。ひまわりの中からオルゴールを見つけ、中央に置く。

男 ああ……。ここにあった……。

男はオルゴールを開く。オルゴールの音が聞こえてくる。

客電が消えていく。

男 ……同じ音色だ。

男は座り込み、オルゴールを聴いている。

男 変わらない。全然変わっていない。でも……。

男 ジョー（声） でも、どうした。

男 え？

男 ジョー（声） 変わらないな。泣き虫。

男 ジョー？

ジョーが脚立にいる。

男 ジョー すぐに泣く。  
男 ジョー ここにいたのか？  
男 ジョー ああ。  
男 ジョー 皆は？  
男 ジョー いるぞ。  
男 リナ 本当に？  
男 リナ 何してるの？  
男 レイ 泣いてるの？  
男 レイ？  
男 ユーリ（声） 泣いちや、ダメ。  
男 ミミ（声） 笑って。  
男 ユーリ。君たちは……。  
男 ソニア（声） どうしたの？  
男 ソニア。ソニア。  
男 ジョー 思い出したか？  
男 僕は……。あの時もオルゴールを聴いていた。皆、皆はずっとここにいたのか……。

ジョー ずっとここだ。なあ、皆。

音楽 「Wind it up」 グウエイン・ステファニー  
照明変化

皆は笑いながら、踊りながら出てきて、男を囲むように動く。やがて大きな布で男を覆うようにして、そして去る。照明明るくなる。男は若いユウになり、立ち尽くして上を見ている。

ジョー 何してる？

ユウ 今日も空は青いのかなあ。

ジョー ユウは昔からロマンチストだ。

ユウ 見たいなあ。青い空。

ジョー ああ。見たいなあ。

ユウ 青い空。白い綿菓子のような雲。

ジョー 美味しいもの、食べたいなあ。

ユウ そうだね。

ジョー 寿司に、ピザ。

ユウ いいね。

ジョー それに、ああ、焼肉が食いたい！

ユウ ……僕は嫌だ。

ジョー どうして。

ユウ 肉の焼ける匂いは、もう……。

ジョー ……そうだな。どれくらいになる？

ユウ ん？

ジョー 俺たち、いつからここにいる？

ユウ まだ桜が咲く前だった。

ジョー じゃあ、もう桜は散ったかな？

ユウ ああ、とつくにな。もう木々は紅く色づいてるよ。秋だ。

ジョー ダメだ、ダメだ。花見は大切なイベントだ。

ユウ お祭り男のジョーだね。

春の花見、夏の祭りに花火大会、秋の祭りにもみじ狩り、冬の雪見酒はやめられないぜ。(と見栄をきる)

ユウ 「ぜ」って？ それに酒？ 弱いくせに。

ジョー 見かけによらず、な。

ユウ 未成年は飲酒禁止。

ジョー お固い、優等生のユウ様ー。

ユウ やめろ。

ジョー 俺は、劣等生のジョー様。

ユウ それ、ホント。ははは……。

遠くに小さく爆発音① が聞こえる。

ジョー 酒でも飲まな、やっつけられへん。

ユウ 酒や、酒や、酒持って来い！  
ジョー おっさんか？ ははは……。  
ユウ 雪が降るまでには出て行けるかなあ？  
ジョー こんなままだったら、身体が腐る。  
マリア（声） お前の腐ってるのは、頭。  
ジョー ゲッ！ マリア。  
マリア（声） マリア先生とおっしゃい。起立！  
ジョー え？  
マリア（声） 早くしなさい。起立！  
2人 はい。（直立不動）  
マリア（声） あー、テスト、テスト。（やさしく） 皆さん。聞こえますか？ 皆さん。聞こえますか？ 皆さん。出てらっしゃい  
皆 はーい。

4人（リナ・レイ・ユリー・ミミ）が整列して出てきて横並びに整列する。

マリア（声） では今日も元気に。  
皆 はい。  
マリア（声） 生徒会長、お願いします。  
ユウ はい！ 準備体操！ はじめ。

5

皆は準備体操をする。

6

ユウ 先生。終わりました。  
マリア（声） では「今日もいい日だ！」の精神で頑張りましょう。では劇の練習をしてください。  
市民の皆さんが楽しみにしてるんだから、お願いね。では、また後で。

チャイム音。

ジョー 今さら練習しても、どうなる。本当に出来るのか？  
ユウ 劇創りが僕たちの、今出来ることだ。  
レイ 楽しいでしょ。  
リナ 街はもう安全よ。  
ミミ でもやっぱり怖いなあ。  
ユリー 怖がりね、ミミは。  
ユウ ユリーはしっかりしてるなあ。  
リナ 音楽部の部長さん。  
ユリー リナこそダンス部のトレーナーでしょ。1年なのにすごい。  
リナ 皆、1年よ。  
ジョー 俺らは2年だ。なあ。  
ユウ ああ。  
レイ 私は演劇部。音楽とダンスと、演劇のコラボよ！ さあ、稽古しよ。

ジョー お前は何部？  
ミミ 何部だと思えますか？  
ジョー ……うーん、年長さんかなあ。  
ミミ ひどい。  
ジョー ははは……。  
ユウ 子どもをからかったらダメだよ。  
ミミ ひどい！ 私は家庭科部。  
ジョー すまん。じゃあ、俺らのお母さんだな。  
ミミ ふん、い、や、です。  
レイ 女を怒らせたら、怖いですよ。  
ユウ ジョー、反省しろよ。  
リナ ユウさんも、同じ穴の貉（むじな）です。  
2人 申し訳ございません。

二人は大げさに土下座。皆、大笑い。

ジョー 劇なんて、意味あるのか？  
ユウ これから街を復興させるのに、皆さんの励みになれば。いいじゃないか。ジョーが委員長、ボスだ。  
ジョー あーあ、モグラみたいだ、俺たち。地下で息をひそめて、じっと様子をうかがってる。  
ジョー モグラ叩きする。皆、大笑い。

リナ 私たち、地下アイドルね。  
ジョー うまいこと、言うね。  
レイ どう？ アイドルっぽい？

レイはカツコよく、ポーズを決める。ジョーもやってみて、皆、盛り上がる。

レイ リナのダンス、見たいなあ。  
リナ ごめん。無理かなあ。  
ジョー リナのダンスが、見たいんだよ。なあ、皆。  
レイ 見たいけど、  
ミミ 無理しないで。  
リナ やってみる。

レイが段ボールからCDを出してかける。

**音楽 「Bang Bang」 アリアナ・グランデ**

リナがふらつく。リナを椅子に座らせる。  
**突然警戒警報のサイレン。**

ユウ また、攻撃か？  
ジョー 最近なかったのになあ。

レイ サイレンも嫌。爆弾も嫌。……いつ終わるんだろ。こんな生活。  
リナ 平和な時間が続けばいいなあ。  
ミミ リナ、大丈夫？  
リナ うん。お腹が痛いだけ。  
ユーリ また家族一緒に暮らしたいなあ。  
ジョー しょげた顔するな。不幸がとりつくぞ。  
ミミ もう充分に不幸です。

**警戒警報のサイレンが止む。**

ユウ 止んだ。稽古しようか。  
リナ ソニアは？ どこ？  
ジョー どこに行ったんだ。  
ミミ トイレかな？  
レイ ソニアがいないと稽古できないよ。  
ユウ 屋上かな。この前も行った。  
ジョー 屋上は禁止されてるのに、大胆だな。  
ユウ 屋上から見ると、故郷の空が見えるんだって。  
レイ ……信じていいのかなあ？  
ユウ ソニアか？  
レイ うん。

リナ 今は一緒に暮らしてる。  
レイ ……でも元々は逃げてきた敵国の人間よ。信用出来るのかなあ？  
ユウ もう4ヶ月になる。ソニアがここに来て。  
リナ 敵じゃないよ。一緒に劇を創ってる仲間よ。  
レイ リナは人がいいから。  
ユウ 信用できるよ。いや、信じてあげなきゃ。な。  
レイ ……はい。  
ジョー ソニアが来た頃は攻撃が激しかった。  
リナ 暑い夏だったね。  
ミミ 爆弾が雨のように降ってた。  
ユーリ 怖かった。  
ユウ 今は我が国が優勢になった。  
ジョー 勝利して早く終わって欲しいな。さあ、稽古するか。  
女子 はい。

女子は準備のために去る。

ユウ ソニアが来た時は驚いたな、  
ジョー ああ。それが今は、一緒にいる。

**警戒警報のサイレン。照明変化。**

ユウ 戦争なんてなければ、皆、一つになれる。  
ジョー そんな僕たちの願いを込めた劇だな。  
ユウ 市民の皆さん、喜んでくれるかな？  
ジョー ああ、皆さんの願いも同じだ。ちゃんとやろう。な。

二人は去る。

【回想 ソニア】 **大きな爆発音②。照明が暗くなる。非常灯が赤くなる。** 皆、寄り添うように集まっていると  
ころに、マリアが来る。

マリア 皆、大丈夫？

ジョーが来て、少し遅れてユウが来る。

ジョー 先生、大丈夫ですか？  
リナ 学校は攻撃されないはずでしょ。  
マリア ええ、学校や病院は大丈夫よ。  
レイ 本当に？ お母さんが心配。看護師だから、戦闘に巻き込まれていないか。  
ユウ 被害は？  
ジョー なぜなんだ。俺らは何にもしていないのに。どんどん攻撃がひどくなる。  
ユウ 落ち着け。

1  
1

ジョー 落ち着いていられるか？ 地下でじっと待ってるのは、もう嫌だ。  
ユウ どうする気だ？  
ジョー 俺……親父だけ戦いに行かせてしまった。俺も一緒に行けばよかった。  
ユウ 危ないよ。  
ジョー ……意気地なしだな、お前。  
ユウ なんだと。  
ジョー 意気地なしと言ったんだ。  
ユウ 僕だって、じっとしてるのは嫌だ。でも僕たちはまだ高校生だ。冷静な状況判断をしなきゃ。  
ジョー さすが、生徒会長。ご立派。  
ユウ バカにするな。  
ジョー お前はいつだって、じっと待ただけだ。行動しろよ。  
ユウ ……。  
ジョー 何とか言え。  
ユウ お前と喧嘩しても仕方ない。  
ジョー 無視するな。  
リナ 喧嘩はやめて。  
ジョー 口、出すな。  
マリア 二人ともやめなさい。あなたたちは皆をリードする立場でしょ。  
ユウ すみません。  
ジョー でも先生、もう4ヶ月になるんですよ。仲間は避難していったのに、俺たちだけここにくぎ付けで。  
マリア ごめんなさい。次はあなたたちが避難する順番だったのに。

1  
2

ユウ 仕方ないですよ。攻撃が激しくなったから。

**爆発音③が聞こえる。**

ジョー 俺ら、いつまでいるんですか？ここに。じっとして、やられるのを待つのは嫌だ。男は皆、戦ってるんだ。俺らも……。

マリア あなたたちは学生よ。

ジョー もう17歳だ。戦える。

ユウ 銃を持つだけが戦いじゃない。僕らの戦いなんだ。これが。

ジョー モグラのように、じっとしていることがか？俺らは卑怯者だ。

マリア 違うわ。あなたたちにはあなたたちの役目がある。

ジョー どんな役目が。

マリア 希望なのよ。若者が生きていくことだけで、希望なのよ。

ジョー 暑いなあ。くそお！（獣のように叫ぶ）

レイ 家に帰りたい。

ユーリ どうしよ。

ミミ もう、やだ。

リナ 私たちどうなるの？

皆、沈黙している。重苦しい空気を破るように、ユーリが立ち上がり、キーボードを覆っていた黒布をどけて「翼をください」を弾き、歌う。

13

ユーリ さ、歌いませよ。音楽は勇気を与えてくれる。

ミミ そんな気になれない。

レイ ユーリは怖くないの？

ユーリ 怖い。だから歌うのよ。

リナ そうね。さあ、皆。歌おうよ。

ユーリ 大きな声で歌えば、力が湧くよ。

ユウ そうだな。

ユーリが「翼をください」を弾き、皆も歌い出す。ジョーは脚立の上で考えている。一番を歌い終わる。

14

ユウ 僕らの願いだね。

レイ 自由に空を飛びたい！

ユーリ そうね。おもいつきり外の空気を吸いたい。

ミミ 地下の空気はねえ。

女子 まずーい！（笑い合う）

リナ ジョーさん、すねないで。

レイ すねてるんですか？か・わ・い・い。

ジョー バカにするな。

マリア そうだ！

リナ どうしたんですか？  
マリア ああ！ピンときた！天才よ、私。  
ジョー 確かに先生はいつも、災難の元です。  
マリア ……劇を作りましょう。  
レイ 芝居ですか？  
マリア そう。音楽部に演劇部にダンス部。それに、家庭科部。ちようどいい。  
ミミ 家庭科部が？  
マリア 衣裳も小道具も必要でしょ。  
ユウ いつ、どこでやるんですか？  
マリア 秋、街のフェスティバルでやるの。  
リナ 秋に？それまでここにいてること？  
マリア しばらくは動けないでしょう。でも秋には、きっと。  
レイ きっと？  
マリア きっと、戦いは終わる。  
ユーリ 本当に？  
マリア 私たちは負けないわ。劇を作りましょう。市民の皆さんに勇気を与えるような劇を。  
ジョー (オーバーに) マリア様に祈りを捧げましょう。  
ユウ どうした？  
マリア 他の先生は逃げたのに、偉いなあと行って。  
ユウ 意味が悪い！  
マリア 作るなら、僕たちの、いや、私たち皆の願いを込めた劇にするんだ。

ジョー ああ、俺たちの怒りを込めてな。  
ユウ 「人類の進化と戦争」。僕らの平和への願いを込めたテーマにしよう。  
マリア いいわね。  
リナ やりましょう！  
皆 うん。はい。(口々に)

**突然、大きな爆発音④**

ジョー 近いぞ。  
ユウ 危ない！

皆は伏せたり、物陰に隠れたりし、ジョーは様子を見に行こうとする。

**爆発音⑤ 突然、非常灯だけが赤く点灯し、暗い。**

ジョー 地上はどうなってるんだろう。  
リナ そうだ。

リナは鞆を探し、携帯を出す。

リナ ダメ。繋がらない。皆はどう？

皆も携帯を探す。

レイ 私もダメ。  
ユーリ ダメ。  
リナ ラインは？  
レイ 送信できない。  
ミミ どうして。  
ユーリ 電波がない？  
リナ 電波はある。  
レイ どういうこと？  
リナ それで応答がない、ということとは……。  
レイ 外はどうなってるの？ まさか。どうしよ。  
リナ 落ち着いて。大丈夫よ。  
レイ だって。もう無理よ。無理、我慢できない。

レイは叫んでいる。リナが抱きとめる。

ユウ 大丈夫だ！  
ジョー 様子を見てくる。  
ユウ 僕も行くよ。

ジョーとユウが出て行こうとする。ダンボールの奥を見て、ジョーが立ち止まる。

ジョー 誰だ。出てこい。  
マリア どうしたの？  
ジョー おい。  
ユウ ああ。  
ソニア（声） 来るな！  
ジョー 行くぞ。

ジョーは走り込もうとする。銃を構えたソニアが出てくる。

ジョー 大丈夫、なんにもしないから。  
ソニア 撃つぞ！ 来るな！  
マリア 危ない。やめなさい！  
ユウ 女……？  
ソニア 来るな！ （銃をユウに向ける）  
リナ やめて！  
ジョー やめろ！  
ソニア 来るな！ うわー！

ジョーはソニアに飛びかかり、もみ合うが、押さえ込み、銃を奪う。

ジョー  
妹の仇だ！

ジョーは銃をソニアに突きつける。

ユウ やめる、ジョー。  
マリア ダメ、ジョー。  
ソニア ごめんなさい。ごめんなさい。  
ジョー 許せん。  
ユウ やめるんだ、ジョー。  
女子 やめて！ (口々に)  
ジョー こいつらが、俺らのすべてを無茶苦茶にしたんだ。  
ユウ やめる！  
ジョー うわー！

ジョーは上に向かって撃つ。銃声一発。

ジョー 出来ない。くそっ！俺は、俺は……。  
ユウ いいんだ、それで。  
マリア あなたは大丈夫？  
ソニア うわあああ……。

リナ 落ち着いて。  
ソニア ダメ、ダメ。やめて。(怯えて暴れる)  
リナ 落ち着いて。  
ユーリ 大丈夫。

ユーリが抱きとめる。

マリア あなた、兵隊？ 名前は？  
ソニア ……。(呆然とうなづく) ソニア。  
ユウ どうしてここに？  
ソニア 歌声が聞こえたから。  
リナ あなた一人？  
ソニア ……。(うなづく)  
レイ 他に誰もいない？  
ソニア ……。(うなづく) ……騙された。  
レイ どういうこと？  
ソニア 「人々を守る正義の戦い」のためだと聞いてたのに。  
ユウ 脱走してきたのか？  
ジョー お前らのせいで、皆、殺されたり、逃げたりしたんだ。  
ソニア ごめんなさい。  
ミミ 怖かったの？

ソニア おじいさんとおばあさんを撃つと命令が……。  
撃つたの？

ソニア 出来ない、そんなこと出来ない。わああ……！  
ユーリ それで逃げたの？

ソニア (頷く)

レイ じゃあ、追われているんでしょう？ ここまで兵隊が追って来るんじゃないの。  
女子 (それぞれに) 私たち、どうなるの？

女子は混乱している。**電気が突然明るくなる。**

リナ あ、点いた。

ミミ よかった。

ユーリ 暗いのは怖い。

ジョー 攻撃は終わったのか？

皆、じつと様子をうかがう。

ユウ みたいだな。

リナ 先生、どうなってるんですか？

マリア 攻撃が止んだ？

レイ もういや。ここから出て行きたい。

マリア バカなことを言うんじゃない！

ジョー ああ、夏の太陽を浴びたい！

ユウ バカ。

ジョー こいつ、どうするんですか。

マリア 歳は？

ソニア 16。

リナ 同じ歳だ。

ジョー 追い出そう。

ミミ かわいそうよ。

マリア 家族はいるの？

ソニア 兄だけ。……でも戦死しました。

ユーリ どうして兵隊に？

ソニア 兄の仇を討ちたかった。

ジョー 俺らの仇はお前達だ。

マリア 行くあては？

ソニア いいえ。

リナ 出て行ったら、捕まるの？

ソニア ……怖い。(頷く)

ユーリ ここにおいてあげましょ。

ジョー バカなことを言うな。追い出すんだ。

レイ そうよ。危ないよ。

ユウ 脱走は重い罪だ。逃げてきたんだ。可愛そうだ。  
ジョー どうしてかばう？ お前はやつぱり俺たちとは違うのか。  
ユウ どういう意味だ。僕を疑うのか。  
ジョー お前のおじいさん……あつちの人間だろ。  
ユウ 僕はこの国で生まれ育ったんだ。この国の人間だ。違うのか、ジョー。そんなふうに使っていたのか。  
ジョー ……すまん。  
マリア ここに一緒にいなさい。  
レイ いいんですか？  
マリア 私たちは平和への願いを込めた劇を作るんですよ。  
レイ はい。  
マリア 「汝の敵を愛せよ。」  
リナ さすがマリア先生。  
ミミ マリア様に祈りを！  
ユウ どうだ？ ジョー。  
ジョー 仕方ない。マリア様の顔を立てるか。  
マリア さ、稽古を始めるよ。  
女子 はい。  
リナ ソニア、こっちにおいで。  
ユーリ 行こう。  
ソニア ありがとうございます。

ソニアは皆に一礼して、リナとユーリとミミは出て行く。  
マリア レイ。いいわね。  
レイ はい。

ジョー ごめん。俺はヒートポンプだ。  
ユウ ああ、そうだな。すぐ血がのぼる。壊れかけのポンプだ。  
ジョー いさかいや争いは、もう……。  
ユウ 無くしたいな。  
ジョー ああ、暑い。  
ユウ 秋のフェスティバルか。  
ジョー それまでに、戦い、勝利して終わって欲しいな。  
ユウ ジョーは平和になったら、何したい？  
ジョー 俺は、高校生生活を楽しみたい。  
ユウ 僕は静かに過ごしたいな。敵も味方もない生活を。  
ジョー そうだな。それに……。  
ユウ ん？ 何だ。  
ジョー 俺たちはずっと友達だ。  
ユウ ああ。

【現在】

笑い合って、二人は出て行く。

音楽 「ハニーハニー」 アバ

リナとソニアが出てきて、リナがソニアに踊りを教えている。冬の服装。ミミとユーリ、レイも加わる。ジョーとユウも来て加わる。

遠くに爆発音⑥。

リナ  
まただ。

ミミ  
最近増えてきたね。

レイ  
戦争、もう半年以上経つのに。

ユーリ  
また攻撃がひどくなってきた。

ソニア  
ごめんなさい。

ジョー  
9月には外にも出ること、出来たのにな。

ユウ  
屋上に出て空を見上げることが出来た。

レイ  
ずっとシエルター暮らし。

リナ  
おかげで劇は出来たけどね。

ソニア  
すみません。

ミミ  
ソニアが謝ることじゃないよ。

ソニア  
ありがとう。

ジョー  
…ソニアが心配だったけどな。

ユウ  
劇でも、いい演技をしてくれてるのに？

ジョー

いい演技？

ユウ

劇中のお前とのからみ、おもしろい。

リナ  
ホント。びっくりよ。

ソニア  
やめて！ 恥ずかしい。

遠くに爆発音⑦。

ソニア  
ソニアが来る。

ソニア

皆、いるね。

ジョー  
どうしたんですか。

ソニア  
まず座って。

皆  
はい。

皆はそれぞれ座る。

ソニア

…大切な話があるの。

ジョー  
何ですか。

ソニア  
命令が届きました。

ユウ  
何の？

ソニア  
ここはいつまでもつか、わからない。

ジョー  
どういう命令ですか？

マリア　今から12時間後、攻撃が停止されます。それからの12時間の間で、避難せよということです。  
レイ　家に帰れるんですか？  
マリア　いえ、国境を超えるの。  
ユーリ　故郷に帰れないんですか？  
ジョー　国を捨てる？  
マリア　私たちの街は、破壊されて、もう家もない……。  
ジョー　俺たちの故郷だ。捨てることなんて、出来ない。  
ユウ　でも、このままではやがて……。  
ジョー　やがて？  
マリア　皆、危ない。だから今のうちに。避難できるように、人道的配慮は守られます。  
ミミ　本当に？  
ジョー　また攻めてくるのか。  
マリア　国連も動いているから大丈夫。  
ユウ　今まで何回も同じことがあった。本当に信じていいんですか。  
ジョー　人道的配慮？　そんな気持ちがあったら、こんな戦争、始めてないだろ。  
ユウ　たくさんの無抵抗な市民が犠牲になった。  
レイ　あんたたちが殺したのよ。  
ソニア　ごめんなさい。ごめんなさい。ごめんなさい。

泣いて暴れるソニア。ミミもユーリも泣いている。レイとリナが抱きとめる。

レイ　油断させて、私たちも殺されるのよ。  
マリア　落ち着いて。  
ミミ　信じられません。  
ジョー　落ち着くんだ、皆。  
リナ　家族が眠っている街を捨てたくない。  
マリア　あなたが無事なのを皆さん、願ってるわ。  
ユーリ　はい。  
ユウ　今はどうするか、落ち着いて考えよう。  
マリア　やがて食料の配給も来なくなるから。  
ジョー　任せとけ。お前らは守ってみせる。  
ユウ　ほお、かっこいい！  
マリア　お願い、とりあえず、荷物をまとめて。  
女子　はい。  
レイ　ソニアはどうするんですか。  
マリア　どうしたい？　一緒に行く？  
ソニア　私はいいんです……。  
ジョー　一緒に行こう。  
ソニア　でも……。  
マリア　国なんか関係ない。皆でやり直すのよ。  
レイ　さつきはごめん。一緒に行こう。  
ソニア　ありがとう。

マリア さ、準備して。ジョーとユウは残って。  
ユウ はい。  
リナ 行こう。  
皆 うん。

女子はお互いに助け合って、出て行く。

ジョー 俺らは何を？  
マリア 皆を守って。  
ユウ 分かりました。  
ジョー 分からない。  
ユウ え？  
ジョー 俺は男だ！（突然叫ぶように）やはり逃げたくない。  
ユウ ……戦うつもりか。  
ジョー ああ。……妹の仇を討ちたいんだ。  
マリア ダメ！ もうこれ以上生徒を戦いに行かせない。  
ジョー すみません。  
ユウ お前ひとりでどうしようと言うんだ。お前が行くなら、僕も。  
ジョー お前は生徒会長だ。皆を頼む。

女子たちが荷物を抱えて来ている。

ユウ 妹さんは気の毒だった。  
ジョー まだ十歳なのに。  
ユウ 無差別攻撃なんて……ひどい。  
ジョー ああ、悔しい。  
ユウ 僕だって、ここから逃げたくない。  
マリア 二人とも、やめて。もうこれ以上は……  
ジョー すみません。でも俺は、このままでは苦しいんです。俺だけ生きていいのか。自分が逃げてるように嫌なんです。

**警戒サイレンが鳴り響く。**

リナ 嫌です。やめてください。私の家族も死んだ……これ以上誰もいなくならないで。  
レイ 一緒に避難してください。  
ユーリ 死ぬ覚悟なんですか？  
ソニア 危険なことはやめてください。  
ジョー バカなことを言うな。俺たちは悪運が強いんだ。なあ。簡単に死なねえよ。（カッコつける）  
ユウ 俺たちは悪運コンビだな。  
ジョー いや、悪運トリオかなあ？ ねえ、マリア先生。ははは……  
マリア 一緒にするな。バカ！  
リナ ごまかさないで。

ソニア 先生、銃を返してください。私が皆を守ります。私は銃に慣れてます。  
マリア 危ないことはダメ！  
ジョー すまん。皆。でも、俺……やっぱり我慢できない。

**爆発音⑧。明かりが消える。**

皆はそれぞれに伏せて、逃げる。

リナ 携帯出して。

皆、携帯を出し、その光で行動する。

マリア 大丈夫？  
ジョー 怪我はないか？  
皆 (口々に) はい。  
ユウ 学校とわかってて、攻撃してるのか。  
ソニア 多分、そうです。  
レイ ひどい。  
リナ 暗いな。  
ミミ 怖い。  
マリア そうだ。ろうそく。

ダンボールの中からLEDろうそくを出し、皆は輪になって座る。

マリア ちょっとは明るいね。  
リナ なんだか暖かい気がする。LEDなのにね。  
レイ 子どもの時を思い出す。キャンプに行って、燃える火をながめていた。  
ユーリ 母さんも弟も、無事に逃げられたかなあ。  
レイ どうしてこんなことになったの。  
ジョー 権力だ。自分の思い通りにしたいんだ。  
リナ 皆、いなくなった。  
マリア こうやっていると気持ちが落ち着きます。昔、校庭でキャンプファイヤーしたわ。  
ユウ 校庭で？  
マリア ものすごく怒られた。  
ジョー やんちゃだったんですね。  
マリア 高1の時よ。  
レイ 先生もここの卒業生？  
リナ 何年前なんですか？  
マリア ノーコメント。  
ジョー 年を気にしてるんですか？ へえー、いちおうレディなんだ。  
マリア いちおうは余計。  
ジョー (オーバーに) マリア様に祈りを捧げましょう。  
マリア こら！ (笑い)

ソニア  
ユーリ  
ソニア

子どもの時は楽しかった。……まさか、こんな世の中になるなんて。でもソニアと知り合えた。はい。

ユウ  
ミミ

こんな静かな時間が続けばいいのに。嫌。

ユウ  
ミミ  
ユーリ

どうして？  
だってお腹すいた。  
お子ちゃまね。

ユーリ  
マリア  
ジョー

私もお腹すきました。  
オバちゃまだ。ははは……。  
マリアちゃまとおっしゃい。

マリア  
ジョー

え？  
女は怖いわよ。  
ゲツ。

皆  
ソニア  
ジョー

ははは……。  
静かですね。昔を思い出します。  
家族？

ソニア  
レイ

はい。でも今は誰もいない。  
……疑って、ごめんね。  
信じてもらえなくて、当たり前です。

ソニア  
リナ

ごめんなさい。

ソニア

え？

リナ

私、嘘ついてた。

ミミ

どうしたの？

リナ

ごめん。本当は心の奥ではソニアを疑ってた。

ソニア

私も同じ……。兄さんの仇を討とうと思ってたのに、ここにいていいのか。でもリナはやさしかった。

ミミ

私だって、ずっと心配してたよ。

ジョー

ははは……。皆、同じだ。

ユウ

どうして憎み合うことになったんだろう。

ジョー

おかしい話だ。国なんて形のないものに、俺たちはひっかきまわされている。

ソニア

軍隊は怖い。どんなことでも、命令に逆らうことなんて考えられなくなる。

マリア

皆、犠牲者なのよ。

### 携帯の着信音。

マリア

あ、繋がった。もしもし。

皆も携帯を触っている。

リナ

どう？

ユーリ

誰も出ない。

ミミ

ダメ。

レイ どうなってるんだろう？  
ジョー 様子を見てくる。

ジョーは出て行く。

マリア 皆、今連絡がありました。やはり今から12時間後、攻撃が停止されます。それからの12時間で、避難せよということです。  
ユウ 信用できますか？  
マリア 信用するしかない。  
リナ ここから出て行くんですか？  
マリア そう。  
ユーリ 怖い。  
レイ 離れ離れになるの？ 嫌だ。  
マリア 皆、一緒に行くのよ。

ジョーが帰ってくる。

マリア どう？  
ジョー ……ひどい。街はほとんど破壊されている。  
ユウ そんなに。  
ジョー ああ。あの光景を見たら、やはり……。

35

ユウ やっぱり行くのか？  
ジョー すまん。  
ユウ やめろ！ 皆と一緒に避難するんだ！  
ジョー 俺は悔しい……。  
ユウ 憎いか。  
ジョー ああ。  
ユウ 敵を許せないか。  
ジョー ああ。  
ユウ 僕もだ。でも憎んだら、憎まれる。憎しみの連鎖は、いつまでたっても終わらない。  
ジョー じつと我慢して、やられるのを待つなんて嫌だ。  
ユウ 僕たちの願いは平和な世の中だろう。  
ジョー そうだ。  
ユウ やめてくれ。頼む。  
マリア ジョー、考え直して。  
ジョー 先生。すみません。  
リナ 私はどこにも行きたくない。ここにいたい。  
マリア え？  
リナ 楽しかった。ここの生活、苦しかったけど、家族みたいで。皆といたら安心する。  
レイ 私も。  
ミミ この子も一緒。(ぬいぐるみを抱きしめる)  
ユーリ ここを出たら、どうなるの？

36

リナ どこに行くんですか？  
マリア 分からない。  
リナ 出て行く方が安全なんですか？  
マリア このままではやがて食料もなくなる。  
ジョー くそつ。  
ソニア やっぱ私はここに残ります。  
レイ ダメ。皆で一緒に行こう。ジョーさんも。ね。  
ジョー ユウ、お前は皆を頼む。  
ユウ お前はいつも僕に仕事を押し付けてくる。  
ジョー ああ。お前はいい奴だからな。  
ユウ お前は調子いい奴だ。  
ジョー 友情だよ。  
マリア 助け合うのよ。  
皆 (それぞれに) うん。(はい。)

女子は抱き合っている。

リナ ダンスもせっかく稽古したのに。誰にも観てもらおうことも出来なかった。  
レイ やるチャンス、もないね。  
ユーリ 稽古があったから、ここの生活に耐えることが出来た。  
ミミ なんだか楽しかった。

ソニア 私、皆さんと一緒に劇をやれて、うれしかった。  
ジョー 先生、避難までまだ時間ありますよね。  
マリア ええ。  
ジョー 今からやろう。  
マリア え？  
ジョー 最後の思い出に、やるんだ。  
リナ 誰もいないのに。  
ジョー いいじゃないか。  
ユウ そうだな。  
ジョー 先生もやりたいんですよ。  
マリア 主演女優だからね。  
ユウ 僕は主演男優だ。  
ジョー 俺もだ！  
マリア 不易流行だね。  
ユウ は？  
マリア 変わらないこと。変わりゆくこと。どちらも大切だということ。  
ジョー 先生が不易で、俺らが流行ですね。  
マリア 違う！ 自由なアイデアと、伝統的なものうまく混じり合うことで、進歩するのよ。  
ユウ シンですね。  
ジョー ははは……、シン・ジョー、シン・ユウ、シン・マリア！ 皆、生まれ変わるんだ。シン・キエフ！

皆、笑顔だ。

ジョー  
ユウ  
ジョー  
いつまでもこんなふうに笑っていたいなあ。  
ああ、そうだな。  
……妹が、アンナがいつも大事にしてたんだ。

ジョーは鞆からオルゴールを出して、蓋を開く。

ユーリ  
ジョー  
きれいな音。  
アンナの形見だ。

皆、オルゴール曲を聴いている。

ジョー  
お前、持っていてくれ。

ユウは黙ってジョーを抱きしめる。

ジョー  
皆  
ジョー  
ソニア  
負けたくない……。さ、やるか！  
はい！  
ソニア、皆を守ってくれ。  
はい。

ユウ  
マリア  
ジョー  
ユウ  
皆  
先生もやるんですよ。  
稽古の成果みせてあげるわ。任せなさい。  
ほう、頼もしい。  
さ、皆、準備して。  
はい！

皆は準備のために去る。

ユウ  
ジョー  
ユウ  
ジョー  
ユウ  
二人  
ここを出たら、お別れか？  
ああ、そうだな。でも必ず、また会おう。  
必ずな。  
俺たちは悪運が……  
強いんだ！  
おう！

笑い合って、ユウが去り、ジョーはユウを見送り、出て行く。

照明が暗くなる。

【劇 「ガラスの中の進化論」】

音楽「ランナウェイ・ベイビー」ブルーン・マーズ

皆で手を強調したダンス。黄色い手袋をしている。手で顔を隠す形で止まる。

音楽「パレス・メモリー」センス

ジョー  
全員  
ユウ  
マリア  
レイ  
ミミ  
リナ  
レイ  
リナ  
ユーリ  
ソニア  
全員

並木の梢が深く息を吸って、空は高く高く、それを見ていた。  
日の照る砂地に落ちていたガラスを、歩み来た旅人は慌てて見つけた。  
昔、タレスという偉いおじいさんが、万物の根源は「水」だと言った。  
すべては水から生まれ、進化していった。  
昔、宇宙の塵が奇跡的に集まり、地球を作った。  
そして奇跡的に水が存在した。  
すべては水から生まれ、進化していった。  
昔、地球の空気は二酸化炭素ばかりだった。  
だから、まず海中に生命が誕生した。  
すべては水から生まれ、進化していった。  
すべては水から生まれ、進化していった  
そして私たち、人間が生まれた。

**音楽「ひとりぼっちはやめた」ジブリ・オルゴール**

全員は眠りに落ちる。博士（ジョー）と助手（ユウ）が白衣を着る。

ジョー  
ユウ  
ジョー  
ユウ  
ジョー

それは何年か前のある日、どこかで誰かが生まれた。  
どこかで生まれた誰かは泣いた。大声で泣いた。  
一人で生きる淋しさをきつと分かっているのだろう。泣いた。叫んだ。  
少しづつ気が付いていく。ママの匂い、ミルクのおいしさ。やさしい心。  
目を開けた！ 世界を見た！

全員立ち上がる。

ユウ  
不思議そうに、自分の意志によって動く物体を見つけた。

全員、動く手を見つめる。

ジョー  
ユウ  
ジョー  
ユウ  
ジョー  
ユウ  
ジョー

無意識ではあるが、人間が初めて自分という存在に気付く瞬間だ。  
そして自分の分身を求め始める。  
それが恋愛だ！  
手を握り  
抱きしめ  
孤独を慰め合う。  
手を握るんだ！

ジョーが手を叩くと、全員我に返る。

ジョー  
ユウ  
ジョー  
リナ

君たち、僕の授業が面白くなくても、全員寝ることはないだろ。  
面白くないよね。  
やかましい。  
今、何の授業ですか？

ジョー  
恋愛だ。

全員  
は？

ジョー  
恋愛A・B・C！

ユウ  
そんないやらしいこと言わないでくださいよ。

ジョー  
誰がやらしいんだ。誰がエッチだ。誰が変態だ。誰がサイテーだ。ん？ ん？

ユウ  
そこまで言っていないじゃないですか。

ジョー  
私は真剣に授業してるよ。ABC、アルファベット・ラブだよ。分かるかな！

ユウ  
はいはい。どうぞ。

ジョー  
よし、それでは、まず、A！

**音楽 「キスして欲しい」 ブルーハーツ**

それに合わせてダンス。踊り終わる。

ジョー  
次は、次は、ふふふ、

ユウ  
ひよっとしたら、次はビ、ビ、Bですか？

ジョー  
もちろん。

ユウ  
誰がやるのですか？

ジョー  
もちろん、わたくしが……。

マリア  
ちよっと待った！ わたしが！

ユウ  
じゃあ、僕が。

二人  
どうぞ、どうぞ。

ユウがやることになる。

ジョー  
ふふふ、次は、次は、ふふふ……もちろん、スウィートに、B！

**音楽 「抱いてくれたらいいのに」 工藤静香**

ユウの一人ハグを背中で見せる。

ジョー  
く、く、く、ここまで来たら、分かってる？ 分かってるね。それでは、C！

**音楽 「ハーレム・ノクターン」 サム・テイラー**

全員はペア（ユウとリナ）（マリアとレイ）（ユーリとミミ）（ソニアとジョー）になり、抱き寄せる演技に入る。各ペアは一人が横たわり、ソニアはジョーを襲っている。

リナ  
いや！

リナはユウを突き飛ばし、絶叫。

ジョー  
ストップ！ ダメだ、ダメだ。ほら、おびえてるじゃないか。性暴力はダメだ。

ユウ  
なんだ、お前は。

ジョー  
手の博士だ。

ユウ はあ？ 博士はわたしだ。  
ジョー 手はよいことだけに使われるのではない。  
ユウ どういう意味だ。  
ジョー 手は恐ろしいものも作り出した。

**音楽 「古風なメヌエット」 「ラヴェル」**  
舞台は青暗くなり、ジョーだけが下手に立つ。

ジョー 人間の歴史は争いの歴史だ。手によって知能が発達し、知能によって欲望が大きくなった。人間が人間を殺したのも手によってだった。

人が人の首を絞めるシルエット姿が奥に浮かぶ。

ジョー 人間の進化の第一歩は道具を持ったことだ。そしてそれは戦いに用いられた。棍棒だ。

棍棒を持って戦うシルエットが浮かぶ。

ジョー そして人間は銅を加工し、さらに鉄を使うようになった。手にしたのは刀だ。

刀を持って戦うシルエットが浮かぶ。

45

ジョー 人間は進化し、得たものは、自分を守り他を支配しようとする欲望だった。戦いが人間の歴史だ。46  
争いのない時代はなかった。平和と戦いを繰り返してきた。そして二十世紀には2回も世界大戦を行った。殺す恐ろしさに麻痺し、快感さえ感じるようになる……。

上手にユウが登場。

ユウ そんなことはない。人間には知恵がある。平和な世の中を作っていけるはずだ。  
ジョー 日本は国民を戦いに総動員した。高等女学校の生徒も挺身隊として砲兵工廠で働くようになった。

挺身隊（ひまわりを持った）が整列し、敬礼するシルエット。

ユウ 人間は平和を望んでいる。  
ジョー だが、アメリカは東京にも大阪にも絨毯爆撃を繰り返し、一般市民を何十万人も殺した。挺身隊も市民も子供も焼夷弾の炎で焼き尽くされた。

**爆発音⑨。爆撃音が続く。挺身隊が倒れるシルエット。**

ユウ ダメだ、ダメだ。人間には理性があるんだ。

ジョー そして戦いを終わらせるといふ名目で作られた最終兵器が原爆だ。広島、そして長崎……。

ユウ なんと愚かな……争ってはいけない。いけないんだ。

ジョー だが、人間の心の中には悪魔がいる。

ユウ 違う。人間は、人間はやさしく生きることができるとだ。  
ジョー 見てみる。自分の手は汚れてはいないのか。  
ユウ 自分の手……。  
ジョー 自分の心に悪魔はいないのか。  
ユウ バカなことを言うな。  
ジョー 平和を望んでいるのは本当か？  
ユウ 戦後七十七年、平和であったのはどうしてだ。軍隊を持たないからだ。  
ジョー だが今、そんなことでいいのか。自分は自分で守る。自分の国は自分たちで守るんだ。  
ユウ それでは戦いは終わらない。  
ジョー どうすればいい。  
ユウ 私たちはどうすればいいと思うのか？ 権力を持てば、さらに力を求める。  
ジョー 金も、権力も、悪魔のささやきだ。  
ユウ 平和のために、戦う、なんという矛盾だ。  
ジョー だが、現実だ。

音楽 「高雅にして感傷的なワルツ 1」 ラヴェル

ひまわりを持ったマリア。リナ・レイ・ユーリ・ソニア・ミミが来る。

マリア 朝鮮戦争、ベトナム戦争、湾岸戦争。  
リナ アフガニスタン、シリア。  
ユーリ いつも戦争は絶えない。

ジョー 憎しみあい、殺し合う。  
レイ コソボ、イラン、  
ミミ イラク。チェチェン。  
ソニア 武器を捨てよう。  
マリア 必要なのは学問だ。  
ユウ 本を読み、学ぶことだ。それが平和をつくるんだ。  
ジョー だが血を流さずに平和はあるのか。  
ユウ 血を流して、それで平和なのか。  
ジョー 自分の国は、自分で守るんだ。  
ユウ 戦いは破滅しかもたらさない。  
ジョー 戦え。(拳を振り上げ)  
女子 はい。  
ジョー 武器を持て！  
ユウ やめろ！ やめてくれ！  
ジョー 武器を持て。(拳を振り上げ)  
女子 武器を持つんだ。  
マリア ダメよ！  
ソニア いつも犠牲になるのは市民。  
レイ それも女、子供。  
ユウ 武器を捨てる。  
女子 武器を捨てよう。

ジョー だが、守らないと。  
ユウ 手を見る。  
ジョー ああ、血が……。  
ユウ 流した血は、誰のものだ。  
ジョー 俺の血……。  
マリア 皆の血よ。  
リナ 私たちが欲しいのは自由。  
ミミ 平和。  
レイ 若者の夢を壊すな。  
ユーリ 平和を守るの。  
ミミ 平和を守れ。  
全員 平和を守れ。  
ジョー 自由を守るんだ。  
女子 自由を！  
ジョー 平和を！  
女子 平和を守れ！

ピアノ演奏が流れてくる。「翼をください」を歌い、ウクライナ国歌を続けて歌う。  
**警戒サイレンが鳴り響く。薄暗く赤い照明。**

ユウ どうしたんだ？

49

マリア 停戦するんじゃないの？  
ジョー 俺たちの邪魔をするな。やめろ。やめてくれ。

50

**音楽 「グレゴリオ聖歌」 静かに。**

リナ 早く逃げた方が。  
レイ ここが狙われている。  
ミミ 嘘。  
ユーリ どうしよ。  
ユウ 連絡は？  
マリア (携帯を出して) 繋がらない。  
ジョー きつと攻撃だ。  
ユウ 外の様子を見てくる。  
ソニア 私が行きます。  
ユウ ソニアは危ない。僕が行く。  
ジョー ユウ、頼む。  
ユウ ああ。  
ジョー 劇はまだ最後までやってないぞ。  
ユウ そうだな。  
ジョー 気を付けろ。  
ユウ ああ。皆を頼む。

ユウは出て行く。女子はマリアを中心に集まる。リナが銃を持ってきて、ソニアに渡す。

リナ ユウさんをお願い。

ソニア 皆は私を守る。ユウさんを守ります。

ソニアが出て行こうとする。レイは止めようとする。

レイ 危ないから、気を付けて。

**銃撃音。** ソニアが倒れる。

リナ・レイ ソニア！

**銃撃音・爆発音⑩が激しく。**

ジョーも、皆もゆっくりと倒れていく。

**音楽「グレゴリオ聖歌」高まる。**

**暗転。静寂。**

【エピローグ】 明るくなると、男がオルゴールを聞いている。

男 皆、死んだ。どうして僕だけ、助かったんだ。

男は座り込み、オルゴールを聴いている。

男 音は変わらない。変わっていない。でも……。

ジョーが脚立にいる。

ジョー でも、どうした。

男 え？

ジョー 変わらないな。泣き虫。

男 ジョー？

ジョー ああ。俺たちは負けないぜ。

男 え？ なあ、皆。

「翼をください」の歌が聞こえてくる。皆が、出てくる。

男 皆、皆。

ジョー 泣き虫。

歌声が高まる。

**音楽「逝ける王女のためのパヴァーヌ」ラヴェル**

ユウ どうして僕だけ助かって……。  
ジョー 泣くな。今は俺たち、ここにいる。  
ユウ だけど、……。  
マリア 皆、ここにいるよ。  
ユウ 本当に……。  
ジョー なあ、こんな平和な時間がいつまでもあればいいなあ……。  
ユウ ああ。  
ジョー 若者が変えるんだ、世界を。  
ユウ ああ。  
ジョー こんな悲しみは、もういい。  
ユウ ああ。  
ジョー 頼んだぞ。  
ユウ ああ。  
マリア お問い合わせ。  
ユウ はい。  
女子 お問い合わせします。  
ユウ うん。  
ジョー 泣き虫だなあ。  
ユウ うん。  
リナ 皆集まった記念に、写真撮ろう。  
マリア いいねえ。皆、集まって。

皆、集合写真の形に集まる。

ジョー ユウ、お前、撮ってくれ。  
ユウ 僕が？  
ジョー お前しか撮れないだろ。  
ユウ そうだな。皆、皆、……ハイ、チーズ！

ピカッと光って。ユウだけに光があたる。

ユウ こんな悲しい話は、もうおしまい。

暗転。静寂。

幕